

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構建築研究本部 北方建築総合研究所

mail magazine【建築研究本部かわらばん】VOL. 84 2016/8/17

このメールマガジンは、建築研究本部 北方建築総合研究所が、日頃の調査研究、普及業務などで携わっているニュースを中心に、毎月お送りしているものです。

今月号のトピックス

第84号の内容はこちらです。

■ひとことエッセイ

□「その日は一晩中」

■研究紹介

□研究紹介「地域生活交通における利用意向の要因と意識構造に関する研究」
(平成28～29年度 経常研究)

■イベントのお知らせ

□9月10日(土)「きて★みて★はっけん!!ほくそうけん☆公開デー」の
チラシと詳しいプログラムをHPにアップしました
□ランチタイムセミナーで講演します(9月16日(金)道庁1階交流広場)
□イベント・行事予定

■最近の研究所の動き

□札幌市立大学・北海道立総合研究機構 視察研究交流会に参加しました
□構造計算適合性判定センターから

ひとことエッセイ「その日は一晩中」

その日は一晩中「スゲー」の連呼で興奮しっぱなし。あっ流星痕だ。明るい流星が多いなあ。スピートも速いし願い事を3回も唱えられない。でも出現にはムラがあるなあ。ショットガンのようにいっぺんにドワッと流れたかと思うと、10秒くらい流れないこともある。近くには誰もいない暗闇の中で独り言が数時間続いた。予報が当たった。2001年11月18日(日)深夜から19日の未明にかけて”しし座流星群”が「流星雨」となったのだ。確かに天文雑誌には大出現が予報されていたのだが、半分は疑っていた。というのも中学1年の秋のことがあったからだ。”ジャコビニ流星群”が1972年10月8日の夜に「流星雨」になると新聞、テレビが大きく取り上げ、天体望遠鏡や双眼鏡が大いに売れたフィーバーぶりだったこともあり、友人と2人で自転車で市街地から離れた”光害”の少ないところまで行き、新聞紙の上に寝転がり待った。寒い中、2時間くらい粘ったが数個の流星が見られただけ。雨のように流星が空を埋め尽くすと言ったのは誰だ! 見事な空振りだった。星に興味を持ち始めるきっかけとなった1972年のそんな経験から29年が経ち、目の前には、信じられない光景

が繰り広げられている。その数時間前、勤務地の室蘭へ向けて江別の自宅を出発した時はくもり空だったので、天文現象は天気には勝てないとあきらめていたのだが、白老を過ぎたあたりから晴れ始めたので慌てて観測場所を探す。偶然見つけた視界の開けた場所にシートを敷き、寝袋に入って夜空を見上げる。さすがに11月の夜は寒いですが空では流星が次から次へと流れていく。1976年3月の20世紀を代表する「ウエスト彗星」を見た時以来の感動を味わった。今年のペルセウス座流星群を調べてみると8月12日(金)夜が極大で夜半には月も沈み晴れば絶好の観測条件。この文を書きながら、久しぶりに流星を見ようかと思いついたが、さて、寝袋はどこにあったかなあ。

(総務部 永田)

研究紹介「地域生活交通における利用意向の要因と意識構造に関する研究」 (平成28～29年度 経常研究)

地方部での公共交通の減便・廃止に伴い、車の運転が困難な高齢者や免許を持っていない若年層など交通弱者の移動手段の確保が課題となっています。そのため、道内外の市町村で、コミュニティバスやデマンドバスなど様々な地域生活交通施策が行われています。しかし、いざ導入してみても利用者が極めて少ないため国庫補助の申請基準を満たすことができず、結局減便・廃止になってしまうという事例も見られます。

地域生活交通を維持するため、本研究では、そもそもどのような人が、どのような理由から、地域生活交通を利用したいと思うのかを調査し、利用促進のための改善策を明らかにすることを目的としています。

道内小規模市町村を対象とした住民アンケート調査を実施し、その結果から、地域生活交通を現在利用している人は約20%でしたが今後利用したいと考えている人は約40%であり、決して少なくないことが明らかになりました。また、今後利用したいと考える人は、地域生活交通の行先・乗り方・運行時間などを把握していない人が多いことも明らかになりました。これらより、ダイヤ変更といった運行形態の改善とともに、地域生活交通の利用方法の宣伝や、「行きたい時間に行きたい所まで行くために、地域生活交通をどう使えば良いか」を相談できるアドバイザーの設置といったソフト施策を行うことが重要だと考えられます。

今後は、地域公共交通計画の策定・見直しへの活用を意識しつつ、交通弱者の外出実態と地域生活交通の運行形態の乖離を埋める改善案を示す予定です。

(居住・防災G 岡村)

イベントのお知らせ

■9月10日(土)は「きて★みて★はっけん!!ほくそうけん☆公開デー」
チラシと詳しいプログラムをHPにアップしました

建築研究本部では、来る9月10日(土)に、多くの方々に研究所を知っていただき、また、科学技術に対する理解を深めてもらうために、一般公開を行います。今年のテーマは「防災」。大人も子どももみんなで楽しみ、学ぶことができる地震、火災、津波等に関連する実験や体験、展示コーナーを設け、普段はなかなか見ることができない研究所の姿をわかりやすく公開いたします。思わず参加してみたいくなるブースがいっぱいで、どなたでもご参加できます。(無

料)

日時:平成28年9月10日(土) 10:00~16:00

※体験・展示コーナーは15:00まで、その後、講演会「冬の避難対策と住まいの防災対策」(15:10~16:00)があります。

場所:旭川市緑が丘東1条3丁目

北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所

※チラシ、プログラムはこちらからご覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/event/160910.html>

多くの皆様のご来場をお待ちしております!

■道庁1階交流広場「ランチタイムセミナー」で講演します

ランチタイムセミナーとは、道総研の研究活動を多くの方々に知っていただくため、研究員が講師となって、生活に関係する身近なものをテーマにわかりやすく解説するセミナーです。9月16日(金)のテーマは「省エネルギーな住まいと暮らし方の工夫」です。

日時:平成28年9月16日(金) 12:05~12:55

場所:道庁本庁舎1階ロビー交流広場(札幌市中央区北3条西6丁目)

建築研究本部の北谷講師が、家計や地球環境のために役に立つ省エネルギーについて、日々の暮らしの中でエネルギーを節約するためのアイデアや、リフォームの方法などをご紹介します。

お昼休みのひと時、お弁当や飲み物を片手に科学に触れてみませんか?

■イベント・行事予定

□平成28年度きた住まいる技術講習会及び建築物省エネ法セミナー・意見交換会を開催しています。

《これからの開催予定》

函館市 8月31日(水) / 室蘭市 9月1日(木) / 帯広市 9月7日(水)

釧路市 9月8日(木) / 札幌市 9月14日(水)

※会場や参加申込などは、こちらからご覧になれます。(参加費無料)

↓↓↓

<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/koho/event/kitasumairukousyuu.html>

(企画課 盛永)

最近の研究所の動き

■札幌市立大学・北海道立総合研究機構 視察研究交流会に参加しました

去る7月26日に、札幌市立大学芸術の森キャンパスで開催された、同大学と北海道立総合研究機構の関係者による研究交流会に参加しました。道総研からは北総研と工業試験場の研究者が参加し、市立大とあわせて計4名が研究発表を行いました。私からは建物の自然光による光環境形成に関連する研究を紹介しました。また、空間デザイン、アート、3D造形技術など、普段は交流の少ない多分野の方々が意見を交換し合いました。芸術の森キャンパスの視察も行

い、教員や学生の方々の創造性に富んだ取り組みや、活動環境をご紹介頂きました。この日の研究交流会は、これまでの研究成果の利用先や、新たな研究テーマ発掘に向けた大変有意義な場となりました。

(環境 G 北谷)

■構造計算適合性判定センターから

□7月の判定業務

受付 18件 (18棟)
結果通知 11件 (12棟)

7月の判定依頼は、共同住宅4件、事務所・店舗2件、倉庫・工場6件、幼稚園・保育園2件、その他4件でした。なお図書付き事前相談を含めた受付件数は27件であり、昨年同月の11件を大きく上回る状況となっています。

総判定日数(受付から結果通知までの期間)の平均日数は26.9日(前月比+12日程度)、実判定日数(設計者の修正期間を除く実際の審査期間)の平均日数は6.4日(前月比+1日程度)となりました。補正対応等が迅速に進められた6月集計からは日数が増えたものの、5月と比較すると-1日となっており、あまり変化が無い状況といえます。今後とも期間短縮をふまえた業務改善に取り組んでいきたいと考えています。

設計において、倉庫・工場などの1階床をいわゆる「土間」として設計するケースが少なくありません。多くは建設コストを下げる目的から1階床を構造体として取り扱わず、直接地盤に支持させる方式としたものです。一般的に表層地盤は堅固な地盤であるケースは少なく、地耐力が不足した場合または想定する沈下量に対して床重量が超過した場合は土間が変形を起こす要因となります。また地盤が液状化を引き起こすような場合も同様に被害を受けることとなります。

土間が沈下を起こした場合、上部構造も変形するほどの二次応力を発生するケースもあって、防止策として土間を躯体から絶縁するケースも見られます。

このような仕様とした場合、土間などの1階床の持つもう一つの役割である1階床レベルの面内剛性が全く期待出来なくなりますので、その条件に見合った構造計算にすることが必要となります。

1階床重量の扱い方を変えた場合、付随して構造性能にも影響が発生しますので、設計者等と相談の上総合的に判断することが重要となります。

(構造判定 G 本間)

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部
<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>